

令和元年6月26日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02898

研究課題名(和文) 和英辞典の弱点を補う：構造上収録されない英語語句の研究

研究課題名(英文) Remedying Deficiencies in Japanese-English Dictionaries: Types of Unentered Useful Words and Phrases

研究代表者

山田 茂 (Yamada, Shigeru)

早稲田大学・商学大学院・教授

研究者番号：60298130

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：和英辞典は見出し語の日本語に対し英語の等価表現を与え、日本人の英語での発信をサポートするための辞書である。この構造故に、発信のために有用な英語表現であっても収録されない語句が存在し、和英辞典を使いづらいものにしてしまっていると考えられる。どのような語句が収録されないか、その具体例と傾向を探るべく、中級の外国人学習者向け英英辞典、Longman Wordwise Dictionaryを調べた。その結果、日本語になりにくい表現(例：actually)、多機能の文法項目(例：分詞)が、和英辞典に収録されにくいことがわかった。また、コンテキストにより訳語が変化する表現は、どこに収録するかが問題になる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

和英辞典が使いづらいことの一因として、日本語の見出し語に英語の等価表現を配する基本構造に着目した。どのような表現が和英辞典に収録されにくいのか、中級学習英英辞典を基に該当表現を探り、電子辞書の例文検索機能を用い搭載和英辞典に収録されているか否かを調べ、一定のパターンを導き出したことには価値がある。またこれは、和英辞典の編集に、英語から日本語へという方向性を示唆するもので斬新である。

研究成果の概要(英文)：The Japanese-English dictionary is intended to help Japanese to produce texts in English. It gives English equivalents for Japanese headwords. Since the two languages are linguistically far apart, because of the dictionary's basic structure, there appears to be useful, basic English lexical items inevitably unentered.

This study used Longman Wordwise Dictionary as a source which provides core English information to be used by Japanese for productive purposes. From this English dictionary, words and expressions which are supposed to escape inclusion from the Japanese-English dictionary because of its basic structure are picked, and their non-inclusion was checked through the example-sentence search function of a hand-held electronic dictionary.

It has been found out that it is difficult for the Japanese-English dictionary to capture English items which do not translate well into Japanese and multiple-function grammatical items which transcend translation (e.g., participles).

研究分野：辞書学

キーワード：和英辞典 二言語辞書 発信型辞書

(1) 研究開始当初の背景

日本人が英語で発信する際、日本語をベースに考えることが多い。それをサポートするツールとして和英辞典がある。しかし、グローバル化が進みで日本人による英語での発信の機会が著しく増えた今も、和英辞典が脚光を浴びることはほとんどない。和英辞典が使われない、使い勝手が悪い理由はいくつかあるが、根本的な問題が存在すると考える。

背景、成立の異なる日本語と英語の間には、語彙レベルにおいて一対一の対応関係はなく、ギャップが存在する。和英辞典は、日本語で見出し語を立て、それに対応する英語の訳語、等価表現を提示している。日本語に対応する英語表現がない場合は、英語でその「近似値」を与えたり、説明的な訳を与え急場をしのいでいる。しかし、英語に表現が存在しても、それに対応する語彙化された日本語がなければ、その英語表現は構造上、和英辞典には収録されない。(ある概念が存在しても、それを表す日本語、英語が存在しなければ、和英辞典に収録することは極めて難しい。)このような和英辞典の基本構造のせいで、日本人が使える有用な基本英語表現であっても、収録し切れない表現が多数存在し、そのことが和英辞典の利用価値を低下させているのではないかと考える。

従来の和英辞典編集者はこの問題に気が付かなかった訳でも、手をこまねいてみていた訳でもない。例えば、見出し語の日本語で拾いきれない英語表現を提示する一環として、『クラウン和英辞典』は巻末付録に諺とその英訳を掲載した。『ライトハウス和英辞典』は類義語欄などの囲み記事を充実させた。『ジーニアス和英辞典』は、和英辞典に、より「類義語辞典」の機能を持たせることが必要という判断から、姉妹版の『ジーニアス英和辞典』の項目を「切り貼り」し、類義語情報を盛り込んだ。

150年にわたる和英辞典の歴史を振り返ると、1980年代半ばにブレイクスルーが訪れた。旧来の和英辞典の汚名をそそぐべく、「英和辞典での引き直しを前提としない」和英辞典が出版された。『ライトハウス和英辞典』、『プログレッシブ和英辞典』がそれらの辞書で、前者は意味・語法等の英語の訳語間の違いを逐一記述した。その後、これらの辞書に触発され和英辞典は発展し、収録語彙が10万語レベルにまで増強され、コロケーションの情報が強化されるなど、実用的な辞書が出版された。しかし、構造上和英辞典に収録しきれない英語表現があるという問題に向き合い、根本から取り組んだ和英辞典はない。

(2) 研究の目的

日本語で見出し語を立て、それに対応する英語表現を提示する構成を取る和英辞典には、日本語と英語のミスマッチにより、日本人が発信に使える基本的で有用な英語表現でも収録し切れていない語句が致し方なく存在すると考える。実際にどのような表現が収録されていないか、収録されにくいのか、その具体例と傾向を明らかにし、今後の和英辞典の質の向上に役立てることが本研究の目的である。

(3) 研究の方法

本研究では、日本人が英語で発信する際に必要な英語基本表現を提示しているソースとして、*Longman Wordwise Dictionary* (第2版、2008)に着目した。この辞書は中級学習者向けの、見出し語がアルファベット順に並んだ英英辞典で、見出し語を38000語に絞って、基本語情報を提示している。この辞書を調査し、和英辞典に掲載されていないであろう語句を採取する。採取した語句、用例が電子辞書に掲載されている和英辞典に収録されていないか、例文検索機能を用い検証する。その結果、和英辞典に収録されていないと判断された表現を分析し、その傾向を明らかにする。和英辞典編集、日本の英語教育に精通したインフォーマントに結果を検証してもらう。

(4) 研究成果

和英辞典では、見出し語となる日本語が定まらない以下のような表現がとらえづらいつことがわかった：

- ・日本語になりにくい表現(例："Hi Jo." "My name is Jane, actually." (**actually**, 副詞))
 - ・多機能の文法項目(例：分詞、We were walking along the road, talking. (**along**, 前置詞))
- また、コンテキストにより訳語が変化する表現は、どこに収録するかが問題になる。電子辞書であれば、複数の箇所への収録、リンク等を付けることが可能であろう(例："It's not funny," my mother said angrily. (**angry**, 形容詞))

Longman Wordwise Dictionary を調査する過程で、想定していた日本人が発信に必要とする英語基本表現と同英英辞典が提示する情報との間に乖離があることが判明した。中級学習者向けではあれ、一義的には受信(読解)向けの同辞書には基本語でも周辺的な語義が収録されていたり、他方、当然収録されているべき情報が掲載されていなかった。*Longman Wordwise Dictionary* より上級で大規模な辞書だと周辺的な語彙・語義が増え、小規模な辞書だと収録語彙が限定され、基本語・表現を欠いてしまうだろう。日本人が発信に使える英語のコア表現を一箇所に集めた資料はなかなかない。検証をお願いした松坂ヒロシ先生より、コーパスに頼ることが一つの方法であろうという示唆を頂いた。

(5) 主な発表論文等

雑誌論文(計2件)

Yamada, Shigeru. 2018. "Milestone Japanese-English Dictionaries and Their Implications for Today's Japanese-English Lexicography." Eds. Jayadevan, V, and Oppila Mathivanan. *The Frontiers of Lexicography*. Chennai: Arimaa Nokku. 55-67. 査読なし

Yamada, Shigeru. 2017. "Critical Issues Affecting Japanese-English Dictionaries: An Overview of Japanese-English Dictionary Development." *Proceedings of the Fifth International Symposium on Lexicography and L2 Teaching and Learning, from November 18-19 at Hebei University of Technology, China*. Tianjin: School of Foreign Languages, Hebei University of Technology. 204-215. 査読なし

学会発表（計6件）

山田茂 . 2018 . 「理想的な和英辞典の編集と使用」日本英語表現学会第47回全国大会 . 東海大学高輪キャンパス . 6月23 - 24日 .

Yamada, Shigeru . 2018 . “Recent Changes of English-Japanese and Japanese-English Dictionaries.” The First Salindunong International Conference. April 2-4, 2018. Grand Caprice Restaurant and Convention Center, Cagayan de Oro, Philippines. 基調講演

Yamada, Shigeru . 2018 . “Milestone Japanese-English Dictionaries and Their Implications on Today’s Japanese-English Lexicography.” Madras University Post-Centenary Diamond Jubilee International Seminar on the Frontiers of Lexicography. March 28-29, 2018. University of Madras, Chennai, India.

Yamada, Shigeru . 2017 . “Development and Innovations of Japanese-English Dictionaries.” The Fifth International Symposium on Lexicography and L2 Teaching and Learning. November 18-19. Hebei University of Technology, Tianjin, China. 基調講演

山田茂 . 2017 . 「日本人が発信に使える英語辞書 / 和英辞典編集上の問題点」シンポジウム「和英辞典：コロケーションと日本文化発信」(塚本倫久氏、森口稔氏と) . JACET 語学教育エキスポ . 早稲田大学 11号館 4階第3会議室 . 2017年3月5日 .

山田茂 . 2016 . 「和英辞典の編集と使用上の問題点」日本実用英語学会第41回年次大会 . 沖縄大学 . 2016年9月10、11日 .

(6) 研究組織

研究代表者

山田 茂 (YAMADA Shigeru)

早稲田大学・商学部・教授

60298130